Newsletter

No. 5 September 2012

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

独立記念日

19世紀，中南米の国々がスペインの植民地から次々と独立を果たしました。チリでも1810年9月18日(日本は江戸の世，文化文政時代の頃)にスペインによる植民地統治を拒否し自治政府の設立が決議されました。その後スペイン勢力との独立戦争を経て，初代大統領ベルナルド・オイギンスが独立宣言を果たしたのは1818年2月12日のことですが，チリでは自治政府が設立された9月18日が独立記念日となっています。この日は通称ディエシオーチョ(dieciocho：スペイン語で18を意味する)と呼ばれ，翌日の陸軍記念日や前後日を含め大型連休となります(今年は土日を併せて5連休でした)。気候も徐々に春らしくなる時期でもあり，国を挙げてお祭り気分になってきます。旅行に出かける人も多く，サンティアゴも静かになります。ちょうど日本におけるゴールデンウィークのような雰囲気でしょうか。サンティアゴ市内では大型の公園などでお祭りが開かれ，市内にいる人々の楽しみとなっています。我が家も公園でのお祭りに赴き，飲食やイベントを楽しみました。世界のどこにいても屋外で飲む冷えたビールは最高であることを改めて実感した次第です。

ニュースレター第5号では，8月に行われた東京医科歯科大学ミッション団のチリ・エクアドル訪問，進行中の大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)，新スタッフの紹介等を中心にLACRCの活動をお伝えしてまいります。

河内　洋　LACRC 人体病理学分野

サンティアゴの公園にて開催されたお祭りの様子

LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile

Contents

ご挨拶 1
PRENEC最新情報 2
活動報告 3
Staff (小林助教) 7

PRENEC最新情報

LACRCのメインミッションであるPRENECの最新情報をお伝えいたします。このプロジェクトは、第5州のバルパライソ、第12州のプンタ・アレナスにおいて、それぞれ年間3,000人、サンティアゴにて10,000人を対象とした免疫学的便潜血反応検査（以下、iFOBT)を計画しています。

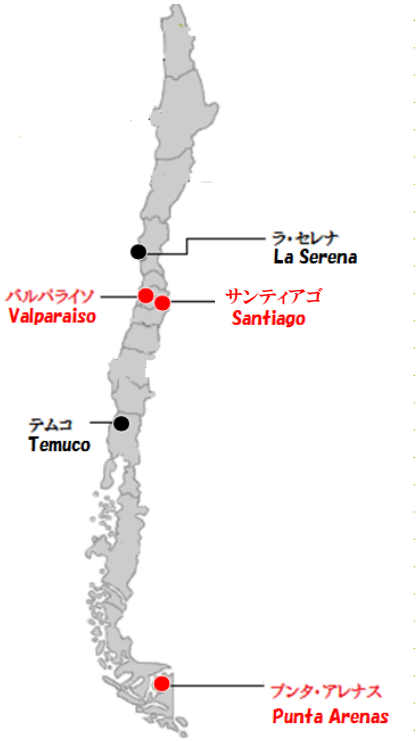
地方でのPRENECの進捗報告

バルパライソのエドアルド・ペレイラ病院とプンタ・アレナスのクリニカ・マガジャネス病院（以下、マガジャネス病院）では、本年5月よりPRENECがスタートしています。

マガジャネス病院では、本取り組みが現地マスメディアに大々的に取り上げられたこともあり、2ヶ月で500名以上が登録済みです。以後も、順調に登録者数が増えており、9月末時点で約1300名が登録し、約1200名がiFOBTを終了しています。そのうち、陽性者もしくは家族歴を有する60名に対し大腸内視鏡検査が実施されており、約半数の患者にポリープが見つかっています。なお、現在までの登録者数の伸びを考慮すると、本年度中には計画していた3000名の便潜血反応検査が終了する予定です。これを受け、来年度もプンタ・アレナスにおいてPRENECを展開できるよう、本プロジェクトの責任者であるCLCの大腸肛門科のロペス医師がマガジャネスの政府高官と交渉に入っています。

エドアルド・ペレイラ病院においては、プロモーション活動が少なかったこともあり、周辺住民にPRENECが十分認知されておらず、登録数はまだまだ少ないのが現状です。現時点では、登録者は約330名、iFOBT実施者数は約250名となっています。今後も、CLCの協力のもと、プロモーションを行うなど、登録者数を増加させる取り組みを進める予定です。

また、ロペス医師は、PRENECの参加を検討する第8州のテムコを訪問し、現地でのプロジェクト立ち上げをアドバイスしています。また第4州のラ・セレナにおいては、来年3月にプロジェクトがスタートする予定です。



PRENEC対象者
19,000人

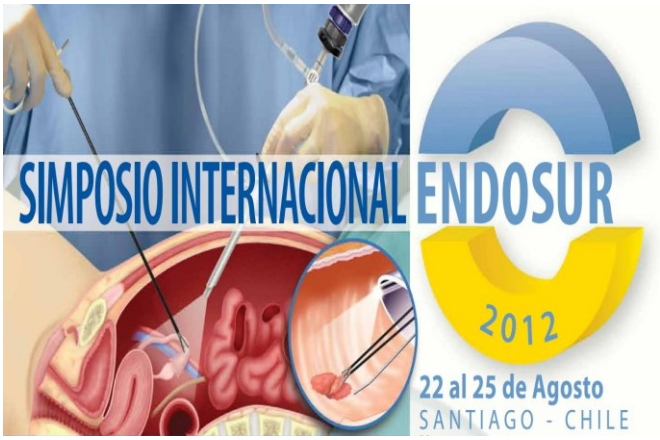
対象条件
・50～75歳の者
・公的保険または
民間保険加入者
・自覚症状がない者
・本PJに同意する者

バルパライソ エドアルド・ペレイラ病院 年間3,000人を対象	→	PRENEC登録者数 **約1300名**
プンタ ・アレナス マガジャネス病院 年間3,000人を対象	→	PRENEC登録者数 **約330名**
サンティアゴ サン・ボルハ病院 年間10,000人を対象	→	本年12月 開始予定
ラ・セレナ 実施病院未定 年間3000人を対象	→	来年3月　開始予定

活動報告

本学の大野喜久郎理事、江石義信教授、杉原健一教授、河野辰幸教授、宮崎泰成教授、吉田丘特任教授からなる訪問団が、8月19日から25日まで、チリ共和国に滞在しました。今回の訪問では、Clinica Las Condesで開催されたSimposio Internacional ENDOSUR(国際シンポジウム、以下ENDOSUR)への参加や、PRENECの進捗確認及び今後の展開のための各種機関との面会を実施しました。また訪問団は、チリ滞在後、エクアドルを訪れ、INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON GASTROINTESTINAL TUMORS（胃腸腫瘍に関する国際シンポジウム）に参加しました。

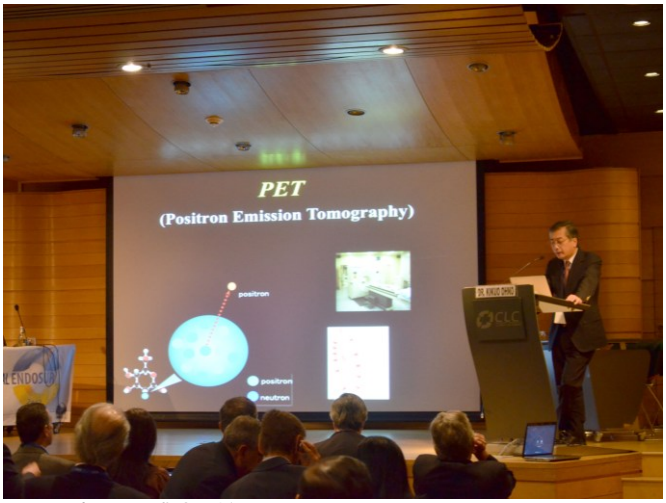
ENDOSURへの参加



CLCで開催されたENDOSURに、本学の大野理事、江石教授、杉原教授、河野教授、LACRCスタッフである河内講師、田中助教が参加し、11の発表やパネルディスカッションの講師を務めました。

約250名が参加したENDOSURは、CLCが主催し、チリ保健省やチリ大学、チリ消化器病学会ならびに本学が後援する国際シンポジウムです。今年度は、日本を始め、米国や欧州から13名の医師が講師として招かれ、大腸疾患に関する講演や最新の研究発表を行いました。また、南米各国の大腸肛門専門医も参加し、各国での現状と課題や最新動向を紹介しました。

なお、PRENECを推進するCLCの大腸肛門科は、ENDOSURにて、地方の2拠点で実施されているPRENECの取り組みを紹介するとともに、国内外にPRENECへの参加を呼びかけました。



大野理事による講演の様子

参加者で賑わう会場の様子

新たなプロジェクトの事前調査

チリ国にて肺癌早期診断プロジェクトを準備中のCLC呼吸器外科クラベロ医師の要請に応じ、訪問団の宮崎教授が、日本における肺癌の早期診断技術の紹介や意見交換を行いました。本学は、国際社会への医療貢献として、中南米での医療技術移転・研究活動を展開していることから、今後も技術指導等にて支援を続けていく予定です。

プレゼンテーションを行う宮崎教授

プロジェクトチームとのミーティングの様子

プロジェクト関係各所への訪問

PRENECの進捗確認及び今後のプロジェクト展開について調査するため、訪問団は、保健省や外務省・AGCIを訪問し、活動の在り方等について協議しました。また保健省直轄のサン・ボルハ国立病院や、チリ大学、在チリ日本大使館、JICAチリ支所等を訪問・視察しました。

保健省を訪問

外務省と外務省の外郭団体であるAGCIを訪問

サン・ボルハ病院の日智消化器病研究所（中央：ペドロ・ジョレンス医師）

CLCの腫瘍学・分子遺伝子学研究所とのミーティングの様子

チリ大学医学部ビバルディ副医学部長を訪問

在チリ日本国大使主催の訪問団歓迎夕食会での記念撮影

カトリカ大学病院の消化器内科アレッセ教授・パラ准教授を訪問

JICAチリ支所訪問

エクアドル訪問

訪問団とLACRCスタッフは、8月27日にエクアドルの首都キトで開催されたINTERNATIONAL SYMPOSIUM ON GASTROINTESTINAL TUMORSに参加しました。このシンポジウムは、エクアドル保健省が主催し、本学が後援しているエクアドル初の胃腸腫瘍に関するシンポジウムであり、本学訪問団が講師として各種発表を行いました。

またエクアドル政府の要請により、本学訪問団は、「エクアドル国保健省・東京医科歯科大学間の大腸癌スクリーニングの実施のための覚書」を締結いたしました。エクアドルでは近年、大腸癌による死亡率が増加傾向にあります。この現状を鑑み、首都キトにあるパブロ・アルトゥーロ・スアレス病院において、大腸癌早期発見のパイロットプロジェクトが計画されており、本学はこのプロジェクトをサポートしていく予定です。具体的には、LACRCスタッフを中心とした学術・技術支援や、研修コースの実施等に取り組んでまいります。

国際シンポジウムの様子

在エクアドル日本国大使主催の訪問団歓迎夕食会での記念撮影

パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院を訪問

パイロットプロジェクトの責任者であるモンタルボ医師との記念撮影

Staff

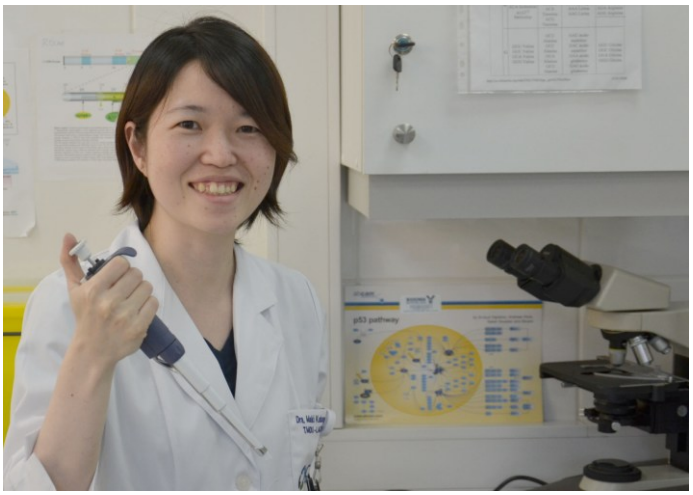
JICA・JSPS科学技術研究員として、新たにLACRCオフィスへ小林真季助教が着任いたしました。小林助教は、約2年間に渡り、本オフィスを拠点に研究活動を行う予定です。

着任挨拶

小林真季　LACRC 人体病理学分野　助教

8月に東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点（LACRC）に赴任いたしました人体病理学分野小林真季と申します。日本国際協力機構（JICA）科学技術研究員（分子病理学・分子生物学専門家）としての派遣になります。こちらでは、「チリにおける大腸癌の環境的および遺伝学的危険因子についての研究」に従事するとともに、LACRCにおける大腸癌集団検診プロジェクト、プロジェクトセメスターの受け入れ、ラテンアメリカ諸国との連携等の推進にチームの一員として微力ながら寄与できればと思っております。

チリに到着してから2カ月になります。“南米”＝“南国”をイメージしがちですが、サンティアゴは緯度33度で、日本の高知県あたりの緯度に位置しております。春・秋は短いものの四季があり、日本の夏の時期はサンティアゴの真冬にあたります。東京を出発したのが7月末、つまりこちらの真冬です。気温37℃の東京から30時間、降り立ったサンティアゴ空港は5℃以下。いきなりの30℃以上の気温差に心身ともに引き締まる思いでした。そんな思いで始まったチリでの生活ですが、こちらの人々はとても温かく、笑顔で迎え入れてくれました。チリ人は挨拶をとても大事にしているようで、知り合いでなくても“Hola!!（オラ）”と挨拶をしてくれます。こちらも自然と笑顔で“Hola!!”とかえす習慣が身につきました。良好な人間関係は挨拶から始まることをこちらで改めて学んだような気がします。約2年間の赴任予定ですが，チリ流に笑顔とオラオラ主義で、研究に，プロジェクトに，日々全力で取り組んでいこうと思います。



CLCの腫瘍学・分子遺伝子学研究所にて

編集後記

訪問団に同行する中で、PRENECプロジェクトを支援してくださる様々な方とお会いすることができ、PRENECは沢山の方々に支えられているプロジェクトだということを改めて感じる機会に恵まれました。今後とも、このLACRC Newsletterを通じて、LACRCオフィスの近況をご報告してまいりますので、今後の誌面にあたり、皆様からご意見・ご要望等がございましたら、お気軽にご連絡くださいませ。（四宮里枝子）

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 5, September 2012

［発行日］2012年9月28日
［制作］Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 610 3780　Fax: (56-2) 610 8610
Email: rshinomiya@CLC.cl